

一般質問 ご家族・保護者に不信感

県立学校で自殺隠蔽の疑惑

9月議会の一般質問では、県立学校で自殺と疑われる事案が発生しながら県教委に十分な報告もなく、事故として隠蔽しようとしたのではないかと聞きました。「ご家族にも、保護者の皆さんにも説明責任を果たしていないのではと学校の対応の拙さを追及したところ、「反省することが多々あった」と笠見教育委員長は問題点を認め、教育委員会としてきちんと調査すると約束いただきました。



お子さんの命が失われた事案だけに追及も厳しいものになりました

調査もせず いじめを否定

保護者からお子さんが救急車で運ばれたと連絡を受けた学校では、県教委へ連絡を入れ、出張先から急遽校長が戻って病院へ駆けつけ、県教委も職員を病院へ

派遣しています。残念なことですが、お子さんは同夜、死亡が確認されました。

ところが、その後、県教委は校長から報告を受けるだけで、対応は学校に任せきりになります。翌日には保護者説明会を開いていますが、この席で「はつきり

言いますが大津の事件とは違います」と断言。余りに早い結論に保護者の中には不信感を持たれた方もあったそうです。

学校の説明では、集中治療室の前で、「ご家族に「いじめとは違いますよね」と確認したこと、学校に残る指導記録がその根拠で、



笠見委員長は元校長先生。質問を真剣に受け止めていただきました

アンケートなどの調査は一切なされていませでした。これではいじめがなかったという言い訳けづくりと批判されてもしかたありません。笠見委員長も初動対応に問題があったとの認識を示されました。

40日後にやっと 教員が自宅訪問

通夜に参列した後、学校の対応として「お子さんのご自宅を教員が訪ねたのは40日余りたってから。電話

真相究明が課題 県教委が調査へ

「ご家族に辛い思いさせてはいけないと、今回の質問にはためらいもありました。しかし、笠見委員長らは事故と理解しており、私が指摘しなければ、問題は闇に消えると思ひ、質問を決断した次第です。

学校や個人が特定されないような質問では日時や場所は全て匿名化し、報道機関にも配慮を求めるお願い文

もなかったそうです。訪問の目的は校納金の清算で、「ご家族に寄り添う気持ちにはなかったのか」とも質問しました。

笠見委員長は「この間、5人の教職員が「自宅を訪ねている」と答弁されましたが、5人は学校の対応を見るに見かねて訪ねたもので、しかも「学校運営の支障になる」と学校側から注意されています。「事実確認が甘いのでは」と再度、注意喚起しました。

を送信。県教委に答弁は気をつけて欲しいとお願いして質問しました。県教委が直接調査に乗り出し、再発防止に努力すると約束頂きましたので、成果はあったと思います。

米子と境港の中学校で、いじめと自殺未遂があったと報道されました。子どもたちの命が何よりも大切です。子ども、保護者、教職員がお互いに信頼できる学校になることを願いつつ、質問を終えました。